

令和4年度 学校教育自己診断（学校評価アンケート）の結果と考察

1. アンケート回答数（回答率）

令和4年10月18日（火）21日（金）配付

10月28日（金）回収〆切

| | 在籍 | 実施日 | 生徒 | | | 保護者 | | | 教職員 |
|--------|---|----------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|--------------|--------------|--------------|------------------|
| | | | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | |
| 令和4年度 | 368人 内訳↓ 1年 78 2年 118 3年 172 | 10/18 10/21 | 356人(97%) | | | 319人(87%) | | | 29/38人 (76%) |
| | | | 74 (95%) 長欠 4 | 117 (99%) 長欠 1 | 165 (96%) 長欠 5 | 67 (91%) | 108 (92%) | 144 (86%) | |
| 令和3年度 | 521人 内訳↓ 1年 147 2年 181 3年 193 | 10/21 | 521人(98%) | | | 440人(84%) | | | 44/44人 (100%) |
| | | | 139 (95%) 長欠 9 | 197 (100%) 長欠 0 | 214 (99%) 長欠 1 | 116 (83%) | 147 (81%) | 177 (92%) | |
| 令和2年度 | 622人 内訳↓ 1年 207 2年 200 3年 215 | 10/13 10/16 | 615人(99%) | | | 507人(82%) | | | 46/46人 (100%) |
| | | | 204 (99%) 長欠 3 | 197 (99%) 長欠 3 | 214 (99%) 長欠 1 | 173 (84%) | 163 (82%) | 170 (79%) | |
| 令和元年度 | 662人 内訳↓ 1年 222 2年 227 3年 213 | 10/10 10/18 | 654人(99%) | | | 573人(87%) | | | 51/51人 (100%) |
| | | | 215 (97%) 長欠 7 | 227 (100%) 長欠 0 | 212 (99%) 長欠 1 | 201 (91%) | 183 (81%) | 189 (89%) | |
| 平成30年度 | 668人 内訳↓ 1年 238 2年 220 3年 210 | 10/19 | 661人(99%) | | | 600人(90%) | | | 50/50人 (100%) |
| | | | 234 (98%) 長欠 4 | 217 (99%) 長欠 3 | 210 (100%) 長欠 0 | 218 (92%) | 208 (95%) | 174 (83%) | |

2. 考察

集計結果の処理は、肯定的回答（◎○）と否定的回答（△×）に分け百分率で表した。

集計表は過去の肯定的回答との比較を百分率（以下『ポイント』と記述）の増減で表した。

なお、マイナスは数値の前に△を付記する。

また、保護者のアンケートでは「わからない」という回答を設け、その数を引いたものを母数とし肯定的回答と否定的回答の百分率を求めた。

年次別（過去3年間のデータと比較）

生徒

- ・今年度は「部活動は盛んである」という項目を除いてすべての項目で上昇している。
- ・中でも10ポイント以上の上昇が見られる項目は「今のクラスに友達がいる」「先生はプロジェクターや生徒1人1台端末を活用するなど、教え方を工夫している」「成績のつけ方について、十分に示されている」「学校は国際理解教育や語学学習など様々な取り組みを積極的に行っている」「学校では人間関係や人権について学ぶ機会がある」であった。
- ・ほとんどの項目でポイントの上昇が見られた要因には、今年度コロナウイルスによる学習の制限や行事の中止などがなく、生徒たちがある程度安心して学校生活を送っていることが数値として表れているのではないかと考えられる。
- ・授業関連の項目でポイントの上昇が見られる要因としては、1年生で3観点による評価が始まったことにより、以前よりも明確に成績のつけ方を示したうえで評価しているという点や、1人1台端末の所持による授業での活用によって授業の理解度が高まっていることがあげられるのではないかと考えられる。

保護者

- ・ほとんどの項目で昨年度と比較してポイントが低下している。生徒の年次別データと比較すると大きな差があるため、まちこみメールやホームページを活用して学校の取り組みをこちらから発信していくことで改善できるのではないかと考える。
- ・「学校は生活指導をきっちり行っている」「学校は、子どもたちの将来の進路や職業について適切に指導している」という項目では、前年度に比べて多少の増減はあるもののポイントが高くなっている。全教職員が協力して生徒の成長を支援していこうという取り組みが保護者にも伝わっているのではないかと考えられる。

教職員

- ・本年度から Google Form で学校評価アンケートを実施した。
- ・教育課程の編成や学習指導計画、進路選択、各種会議が機能しているかどうかという項目でポイントが上昇しているが、その共通点は「教員間で連携をしっかりと取ることができている」ということではないかと考える。
- ・一方、学校行事に関する項目では大きくポイントが低下している。原因と考えられるのは、今年度から体育大会や文化祭が委員会形式となり運営が手探り状態であったことや、生徒数の減少による規模の縮小、コロナウイルスの影響である。

学年別（全体値との比較）

1年生（生徒）

- ・多くの項目で平均値より高い。
- ・「少人数によるきめ細やかな指導が行われている」が平均値より13.5ポイント高い。中学と比較して1学級の人数が少ないこと、少人数展開の授業が行われていることが要因と考えられる。
- ・「全校朝礼や学年集会は学校生活において自分の為になっている」、「学校生活について先生の指導を理解できる」についての項目が平均値より高く学校の指導の方向性について理解、受け入れていると考えられる。
- ・「選択科目や体育専門コースなどの興味関心に応じた授業がある」のポイントは8.2ポイント低い。1年生に授業の選択等はないためポイントが低いことは妥当である。
- ・「文化祭など、学校行事に主体的に関わりたいと思っている」が11.5ポイント高い。今年はコロナウイルス感染症防止による制限があまりなかったことが値に結び付いたと考えられる。

1年生（保護者）

- ・多くの項目で平均値より高い。
- ・「学校に行くのを楽しんでいる」、「子どもの悩み（いじめなど）や相談に親身になって応じてくれる先生（教職員）がいる」が平均値より高くなっている。教員と家庭に一定の信頼関係を築けていることが伺える。
- ・「授業がわかりやすいと言っている」は平均値より高くなっており、それぞれの授業での工夫が評価に反映されていると考える。
- ・「学校行事は、子どもたちに達成感や自主性をもたせるように工夫されている」は平均値より低い。生徒数が減っていくにあたり、行事をどのように盛り上げていくかに課題がある。
- ・「部活動は盛んである」が全体値に対して低い。生徒数の減少や新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、入部率や部員数が下がっていることが要因ではないかと考える。

2年生（生徒）

- ・全体的に平均値以下が多いが、大きな差異はない
- ・「学校へ行くのは楽しい」「学校で勉強するのは、大切なことだと思う」「授業はわかりやすい」が全体値よりポイントが低い。2年生の中だるみの時期に勉強への意欲が下がっていると考えられる。より一層学習意欲を高めるような工夫が求められる。
- ・「全校朝礼や学年集会は学校生活において自分の為になっている」、についての項目が平均値より高く学校の指導の方向性について理解、受け入れていると考えられる。

2年生（保護者）

- ・多くの項目で全体より低い。
- ・「子どもは、学校へ行くのは楽しいと言っている」「子ども自身は学校で勉強するのは、大切なことだと思っている」のポイントが大幅に低くなっている。これは生徒のアンケートの結果に比例しているため、生徒の学校への意欲関心を高める工夫が求められている。
- ・「学校行事は子どもたちに達成感や自主性をもたせるよう工夫されている」のポイントが高くなっている。今年は新型コロナウイルス感染症防止による制限があまりなかったことが値に結び付いたと考えられる。

3年生（生徒）

- ・全体的に平均値前後であり、大きな差異はない
- ・「学校に行くのは楽しい」が平均値より高い。過去2年に比べ今年は制限も緩和されて様々な活動ができるようになったことが影響していると考ええる。
- ・「選択科目や体育専門コースなどの興味関心に応じた授業がある」のポイントが平均値より高い。自分の希望にあった授業選択や展開授業があり、様々な取り組みにも進路実現等の兼ね合いから参加している生徒がいると考えられる。

3年生（保護者）

- ・全体的に平均値に比べポイントが低い。
- ・「子どもは学校に行くのが楽しいと言っている」、「教職員は、生徒の能力や努力を適切に評価している」の項目も全体より高いことから、学校の活動に理解を得られていると考える。
- ・「学校に行くのを楽しんでいる」のポイントが全体より高い一方で、「クラスに友達がいる」等のポイントが低い。
- ・「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」のポイントは全体より低い。3年生になって、生徒・保護者ともに学校に慣れ、学校から家庭へ連絡することも減り、教職員との距離があるように感じているのではないかと考える。

1年生の年度別変化（各年度との比較）

生徒

- ・ほとんどの項目で、肯定的な回答が過去4年間の数値を上回っている。
- ・特に人間関係に関する項目や、授業のわかりやすさに関する項目、少人数授業に関する項目、ICTに関する項目、成績評価に関する項目は、9割前後が肯定的な回答をしている。少人数で学級が構成されていることの効果が表れている。また、観点別学習状況の評価が導入されたことを受けて、成績評価に関する丁寧な説明が行われていることもうかがえる。クロームブックの活用が進んでいることもうかがえる。
- ・「選択科目や体育専門コースなどの興味に応じた授業がある。」と「部活動は盛んである。」の項目は、昨年度とほぼ同じポイントである。体育専門コースが閉講になったことや、部活動に所属している生徒数及び部活動加入率が減少していることが原因として考えられる。

保護者

- ・「子どもは、学校に行くのを楽しんでいる。」の項目が前年度より13.7ポイント上昇しており、過去4年間と比較しても最も高い数値となっている。同項目に関しては、生徒を対象としたアンケート結果では昨年度と大きな違いがないことから、学校生活について家庭で話す機会が多いことが推測される。
- ・国際理解教育に関する項目は、前年度より15.2ポイント上昇した。同項目は生徒を対象としたアンケート結果でも大幅に数値が上昇しており、映画鑑賞や留学生との交流などの取り組みについて、家庭でも情報共有されていることがうかがえる。
- ・生徒に対する相談体制に関する項目は、前年度より10.2ポイント上昇した。過去4年間と比較しても最も高い数値である。少人数で学級を構成していることで、生徒一人一人に目が届きやすい状況を反映していると考えられる。
- ・部活動に関する項目は前年度より14.1ポイント低下した。生徒対象のアンケート結果同様、部活動に所属している生徒数及び部活動加入率が減少していることが原因として考えられる。
- ・ホームページやまちこみメールに関する項目が前年度より28.4ポイント低下した。過去4年間と比較しても最も低い数値である。まちこみメールについての周知が不十分であることがうかがえる。まちこみメールのいっそうの利用を呼び掛ける必要がある。

2年生の年度別変化（各年度との比較）

2年生（生徒）

- ・全体的に上昇している項目が多い。特に「授業でわからないことについて、先生に質問できている。」「実習実験による体験授業が行われている。」「学校は国際理解教育や語学研修など様々な取り組みを積極的に行っている。」について、令和元年からポイントが低下し続けていたが、今回10ポイント以上上昇している。コロナウイルスの影響を受けていた授業内容が改善され、様々な実施形態で授業を展開できていることが関連していると考えられる。
- ・一方、「学校で勉強するのは、大切なことだと思う。」「選択科目や体育専門コースなどの興味関心に応じた授業がある。」「部活動は盛んである。」については前年度の比較より減少した。自宅待機でオンライン授業が受けられることや、課題提出をオンラインで済ませることへの慣れが影響しないように気をつけなければならない。その他の低下については、全体の生徒数の減少が影響しているが、体育専門コースに興味関心がない生徒、部活動に入らない生徒が増加しているため、このような結果となったと考えられる。

2年生（保護者）

- ・前年度比較より多くの項目で低下した。特に「子どもは、「クラスに友達がいる」と言っている。」「選択科目や体育専門コースなどの興味関心に応じた授業がある。」「授業参観、学校行事、PTA 活動に積極的に参加している。」について、前年度は上昇していた項目であるが、今回 10 ポイント以上低下した。生徒対象のアンケートで「今のクラスに友達がいる。」については、前年度より 8.4 ポイント上昇している。生徒と保護者の認識にズレがあること、PTA 活動については、前年度よりも活動は盛んになってきているにも関わらず、ポイントが低下しているのは、活動への関心が薄れてきていることが懸念される。「PTA 活動は盛んである」という項目は前年度よりも 3.6 ポイント上昇していることから、PTA 役員の保護者の活動が、前年度よりも活動の機会が増えてできていることが影響していると考えられる。
- ・前年度は全体で 15 項目低下したが、今回は 18 項目低下した。しかし生徒向けのアンケートでは低下した項目は 3 項目である。学校生活の捉え方に保護者と生徒の間で差があることから、学校生活について家庭でコミュニケーションが取れていないことが考えられる。

3年生の年度別変化（各年度との比較）

生徒

- ・総じてポイントが上昇している項目が多い。また、「学校に行くのが楽しい」「授業はわかりやすい」「先生はプロジェクターや生徒一人一台端末を活用するなど教え方を工夫している」など 10 ポイント以上の上昇がみられた項目が 5 つあった。
- ・1、2年生時に新型コロナウイルスによる学校活動の制限を経験しているため、今年のはびのびと学校生活を送れている結果であると考えられる。
- ・一方で、5 ポイント以上低下している項目は「少人数によるきめ細やかな指導」「実習実験による体験授業が行われている」「部活動は盛んである」の 3 つであった。学校で学ぶことの大切さ・重要性を再認識したことで、学校で学ぶことを大切にしていこうとする姿勢がこの数値に表れていると考えられる。

保護者

- ・全体的にポイントがやや低下している項目が多い。特に「学校は、教育方針や教育情報等をわかりやすく伝えている」「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」の項目は 10 ポイント以上低下している。
- ・生徒の評価とは反対に、コロナ禍が続く状況下では保護者の理解をさらに求めると同時に、より親切丁寧な対応や、学校の情報を発信していくことが必要である。
- ・「学校では、子どもに関する個人情報が守られている」の項目は 6.1 ポイント上昇した。過去 2 年連続で低下していた項目で、さらに Chromebook の活用やホームページでの情報発信など、情報機器を使うことが増えてきたが、上昇しているのは努力の賜物である。

現 3 年生（45 期生）の経年変化（過去 2 年間のデータと比較）

3 年生（生徒）

- ・7 割以上の項目で上昇がみられた。特に「今のクラスに友達がいる」の項目では 2 年次と比べ 5.9 ポイントの上昇し「学校では人間関係や人権について学ぶ機会がある」の項目では 1 年次と比べ 10.9 ポイントもの上昇があった。学校に対する理解や、学校で築き上げられる人間関係の構築が徐々にできているのではと考えられる。
- ・45 期に限らないことであるだろうが、「先生はプロジェクターや生徒 1 人 1 台端末を活用するなど、教え方を工夫している」の項目はポイントが上昇しており、「部活動は盛んである」の項目はポイントが低下している。

3年生（保護者）

- ・生徒のアンケートに比べると、上昇項目はかなり少なかった。一方で、大幅な減少があった項目もないように感じた。生徒のアンケートとのポイントのずれもあり、生徒からの生徒自身の学校での様子や学校に対する考えがあまり伝わっていないように感じる。
- ・「部活動は盛んである」の項目は1年次と比べ12.8ポイント低下しており、生徒数減少に伴う部活動縮小は、少なからず生徒にも保護者にも印象付いているのだと感じた。

現2年生（46期生）の経年変化（過去1年間のデータと比較）

2年生（生徒）

- ・「今のクラスに友達がいる」の項目が10.9ポイントの上昇がみられ、2年生になって人間関係が築けてきている様子がうかがえる。
- ・「先生はプロジェクターや生徒一人1台端末を活用するなど、教え方を工夫している。」の項目が11.7ポイント上昇している。クロームブックの活用が浸透してきていると思われ、「授業はわかりやすい」の項目も6.8ポイントの上昇していることから授業の理解度の向上にも結び付いていると考えられる。授業で分からないことについて質問できていると感じている割合も上昇しているので教員との関係も2年生になってできてきていることが結果に結びついていると考える。
- ・「少人数によるきめ細やかな指導が行われている。」の項目は7.8ポイントの低下がみられるものの、2年生になって選択科目が始まったので「選択科目や体育コースなどの興味関心に応じた授業がある。」の項目は7ポイント上昇している。
- ・生徒の授業に関する意識は概ね肯定的と考えられる。

2年生（保護者）

- ・全体的に昨年度より低下している項目が増えていることが見受けられる。
- ・特に「子どもは、「学校で学ぶことは大切だ」と思っている。」の項目が8.2ポイント低下している。授業に対する意識が生徒は上昇している一方で、保護者との認識には差があるようだ。
- ・「学校は、教育方針や教育情報をわかりやすく伝えている。」という項目も8.7ポイントと大幅に低下しているので学校の情報が保護者にうまく伝わっていないということが考えられる。「学校のホームページやまちこみメールを利用している。」の項目が7.9ポイントの低下もまた見られる。新型コロナウイルスの感染状況も一時落ち着いたこともあり、若干利用頻度が減ったことも考えられるが学校の状況を保護者へ伝えるためのツールとして今後も有効に利用する必要があると感じる。
- ・生徒と保護者の認識の差が大きく表れた結果となっているので今後学校の情報をより周知していく必要がありそうだ。

年次別（過去3年間のデータと比較）

生徒

- ・今年度は「部活動は盛んである」という項目を除いてすべての項目で上昇している。
- ・中でも10ポイント以上の上昇が見られる項目は「今のクラスに友達がいる」「先生はプロジェクターや生徒1人1台端末を活用するなど、教え方を工夫している」「成績のつけ方について、十分に示されている」「学校は国際理解教育や語学学習など様々な取り組みを積極的に行っている」「学校では人間関係や人権について学ぶ機会がある」であった。
- ・ほとんどの項目でポイントの上昇が見られた要因には、今年度コロナウイルスによる学習の制限や行事の中止などがなく、生徒たちがある程度安心して学校生活を送っていることが数値として表れているのではないかと考えられる。
- ・授業関連の項目でポイントの上昇が見られる要因としては、1年生で3観点による評価が始まったことにより、以前よりも明確に成績のつけ方を示したうえで評価しているという点や、1人1台端末の所持による授業での活用によって授業の理解度が高まっていることがあげられるのではないかと考えられる。

保護者

- ・ほとんどの項目で昨年度と比較してポイントが低下している。生徒の年次別データと比較すると大きな差があるため、まちこみメールやホームページを活用して学校の取り組みをこちらから発信していくことで改善できるのではないかと考える。
- ・「学校は生活指導をきっちり行っている」「学校は、子どもたちの将来の進路や職業について適切に指導している」という項目では、前年度に比べて多少の増減はあるもののポイントが高くなっている。全教職員が協力して生徒の成長を支援していこうという取り組みが保護者にも伝わっているのではないかと考える。

教職員

- ・本年度から Google Form で学校評価アンケートを実施した。
- ・教育課程の編成や学習指導計画、進路選択、各種会議が機能しているかどうかという項目でポイントが上昇しているが、その共通点は「教員間で連携をしっかりと取ることができている」ということではないかと考える。
- ・一方、学校行事に関する項目では大きくポイントが低下している。原因と考えられるのは、今年度から体育大会や文化祭が委員会形式となり運営が手探りな状態であったことや、生徒数の減少による規模の縮小、コロナウイルスの影響である。

1年生の年度別変化

生徒

- ・ほとんどの項目で、肯定的な回答が過去4年間の数値を上回っている。
- ・特に人間関係に関する項目や、授業のわかりやすさに関する項目、少人数授業に関する項目、ICTに関する項目、成績評価に関する項目は、9割前後が肯定的な回答をしている。少人数で学級が構成されていることの効果が表れている。また、観点別学習状況の評価が導入されたことを受けて、成績評価に関する丁寧な説明が行われていることもうかがえる。クローズドブックの活用が進んでいることもうかがえる。
- ・「選択科目や体育専門コースなどの興味に応じた授業がある。」と「部活動は盛んである。」の項目は、昨年度とほぼ同じポイントである。体育専門コースが閉講になったことや、部活動に所属している生徒数及び部活動加入率が減少していることが原因として考えられる。

保護者

- ・「子どもは、学校に行くのを楽しんでいる。」の項目が前年度より13.7ポイント上昇しており、過去4年間と比較しても最も高い数値となっている。同項目に関しては、生徒を対象としたアンケート結果では昨年度と大きな違いがないことから、学校生活について家庭で話す機会が多いことが推測される。
- ・国際理解教育に関する項目は、前年度より15.2ポイント上昇した。同項目は生徒を対象としたアンケート結果でも大幅に数値が上昇しており、映画鑑賞や留学生との交流などの取り組みについて、家庭でも情報共有されていることがうかがえる。
- ・生徒に対する相談体制に関する項目は、前年度より10.2ポイント上昇した。過去4年間と比較しても最も高い数値である。少人数で学級を構成していることで、生徒一人一人に目が届きやすい状況を反映していると考えられる。
- ・部活動に関する項目は前年度より14.1ポイント低下した。生徒対象のアンケート結果同様、部活動に所属している生徒数及び部活動加入率が減少していることが原因として考えられる。
- ・ホームページやまちこみメールに関する項目が前年度より28.4ポイント低下した。過去4年間と比較しても最も低い数値である。まちこみメールについての周知が不十分であることがうかがえる。まちこみメールのいっそうの利用を呼び掛ける必要がある。

2年生年度別変化

2年生（生徒）

全体的に上昇している項目が多い。特に「授業でわからないことについて、先生に質問できている。」、「実習実験による体験授業が行われている。」、「学校は国際理解教育や語学研修など様々な取り組みを積極的に行っている。」について、令和元年からポイントが低下し続けていたが、今回 10 ポイント以上上昇している。コロナウイルスの影響を受けていた授業内容が改善され、様々な実施形態で授業を展開できていることが関連していると考えられる。

一方、「学校で勉強するのは、大切なことだと思う。」、「選択科目や体育専門コースなどの興味関心に応じた授業がある。」、「部活動は盛んである。」については前年度の比較より減少した。自宅待機でオンライン授業が受けれることや、課題提出をオンラインで済ませることへの慣れが影響しないように気をつけなければならない。その他の低下については、全体の生徒数の減少が影響しているが、体育専門コースに興味関心がない生徒、部活動に入らない生徒が増加しているため、このような結果となったと考えられる。

2年生（保護者）

前年度比較より多くの項目で低下した。特に「子どもは、「クラスに友達がいる」と言っている。」、「選択科目や体育専門コースなどの興味関心に応じた授業がある。」、「授業参観、学校行事、PTA 活動に積極的に参加している。」について、前年度は上昇していた項目であるが、今回 10 ポイント以上低下した。生徒対象のアンケートで「今のクラスに友達がいる。」については、前年度より 8.4 ポイント上昇している。生徒と保護者の認識にズレがあること、PTA 活動については、前年度よりも活動は盛んになってきているにも関わらず、ポイントが低下しているのは、活動への関心が薄れてきていることが懸念される。「PTA 活動は盛んである」という項目は前年度よりも 3.6 ポイント上昇していることから、PTA 役員の保護者の活動が、前年度よりも活動の機会が増えてできていることが影響していると考えられる。

前年度は全体で 15 項目低下したが、今回は 18 項目低下した。しかし生徒向けのアンケートでは低下した項目は 3 項目である。学校生活の捉え方に保護者と生徒の間で差があることから、学校生活について家庭でコミュニケーションが取れていないことが考えられる。

3年生の年度別変化

生徒

総じてポイントが上昇している項目が多い。また、「学校に行くのが楽しい」「授業はわかりやすい」「先生はプロジェクターや生徒一人一台端末を活用するなど教え方を工夫している」など10ポイント以上の上昇がみられた項目が5つあった。

1、2年生時に新型コロナウイルスによる学校活動の制限を経験しているため、今年はこのびと学校生活を送れている結果であると考えられる。

一方で、5ポイント以上低下している項目は「少人数によるきめ細やかな指導」「実習実験による体験授業が行われている」「部活動は盛んである」の3つであった。学校で学ぶことの大切さ・重要性を再認識したことで、学校で学ぶことを大切にしていこうとする姿勢がこの数値に表れていると考えられる。

保護者

全体的にポイントがやや低下している項目が多い。特に「学校は、教育方針や教育情報等をわかりやすく伝えている」「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」の項目は10ポイント以上低下している。

生徒の評価とは反対に、コロナ禍が続く状況下では保護者の理解をさらに求めると同時に、より親切丁寧な対応や、学校の情報を発信していくことが必要である。

また、「学校では、子どもに関する個人情報が守られている」の項目は6.1ポイント上昇した。過去2年連続で低下していた項目で、さらにChromebookの活用やホームページでの情報発信など、情報機器を使うことが増えてきたが、上昇しているのは努力の賜物である。

現2年生（45期生）の経年変化（過去1年間のデータと比較）

2年生（生徒）

「今のクラスに友達がいる」の項目が10.9ポイントの上昇がみられ、2年生になって人間関係が築けてきている様子がうかがえる。また、「先生はプロジェクターや生徒一人1台端末を活用するなど、教え方を工夫している。」の項目が11.7ポイント上昇している。クロームブックの活用が浸透してきていると思われ、「授業はわかりやすい」の項目も6.8ポイントの上昇していることから授業の理解度の向上にも結び付いていると考えられる。授業で分からないことについて質問できていると感じている割合も上昇しているので教員との関係も2年生になってできてきていることが結果に結びついていると考える。「少人数によるきめ細やかな指導が行われている。」の項目は7.8ポイントの低下がみられるものの、2年生になって選択科目が始まったので「選択科目や体育コースなどの興味関心に応じた授業がある。」の項目は7ポイント上昇している。

生徒の授業に関する意識は概ね肯定的と考えられる。

2年生（保護者）

全体的に昨年度より低下している項目が増えていることが見受けられる。

特に「子どもは、「学校で学ぶことは大切だ」と思っている。」の項目が8.2ポイント低下している。授業に対する意識が生徒は上昇している一方で保護者の意識は低下しているようだ。また、「学校は、教育方針や教育情報をわかりやすく伝えている。」という項目も8.7ポイントと大幅に低下しているので学校の情報が保護者にうまく伝わっていないということが考えられる。「学校のホームページやまちこみメールを利用している。」の項目が7.9ポイントの低下もまた見られる。新型コロナウイルスの感染状況も一時落ち着いたこともあり、若干利用頻度が減ったことも考えられるが学校の状況を保護者へ伝えるためのツールとして今後も有効に利用する必要があると感じる。生徒と保護者の認識の差が大きく表れた結果となっているので今後学校の情報をより周知していく必要があるとそうだ。

現3年生（45期生）の経年変化（過去2年間のデータと比較）

3年生（生徒）

7割以上の項目で上昇がみられた。特に「今のクラスに友達がいる」の項目では2年次と比べ5.9ポイントの上昇し「学校では人間関係や人権について学ぶ機会がある」の項目では1年次と比べ10.9ポイントもの上昇があった。学校に対する理解や、学校で築き上げられる人間関係の構築が徐々にできているのではと考えられる。

また、45期に限らないことであるだろうが、「先生はプロジェクターや生徒1人1台端末を活用するなど、教え方を工夫している」の項目はポイントが上昇しており、「部活動は盛んである」の項目はポイントが低下している。

3年生（保護者）

生徒のアンケートに比べると、上昇項目はかなり少なかった。一方で、大幅な減少があった項目もないように感じた。生徒のアンケートとのポイントのずれもあり、生徒からの生徒自身の学校での様子や学校に対する考えがあまり伝わっていないように感じる。

ただ、「部活動は盛んである」の項目は1年次と比べ12.8ポイント低下しており、生徒数減少に伴う部活動縮小は、少なからず生徒にも保護者にも印象付いているのだと感じた。

学年別（全体値との比較）

1年生（生徒）

- ・多くの項目で平均値より高い。
- ・「少人数によるきめ細やかな指導が行われている」が平均値より 13.5 ポイント高い。中学と比較して1学級の人数が少ないこと、少人数展開の授業が行われていることが要因と考えられる。
- ・「全校朝礼や学年集会は学校生活において自分の為になっている」、「学校生活について先生の指導を理解できる」についての項目が平均値より高く学校の指導の方向性について理解、受け入れていると考えられる。
- ・「選択科目や体育専門コースなどの興味関心に応じた授業がある」のポイントは 8.2 ポイント低い。1年生に授業の選択等はないためポイントが低いことは妥当である。
- ・「文化祭など、学校行事に主体的に関わりたいと思っている」が 11.5 ポイント高い。今年は新型コロナウイルス感染症防止による制限があまりなかったことが値に結び付いたと考えられる。

1年生（保護者）

- ・多くの項目で平均値より高い。
- ・「学校に行くのを楽しんでいる」、「子どもの悩み（いじめなど）や相談に親身になって応じてくれる先生（教職員）がいる」が平均値より高くなっている。教員と家庭に一定の信頼関係を築けていることが伺える。
- ・「授業がわかりやすいと言っている」は平均値より高くなっており、それぞれの授業での工夫が評価に反映されていると考える。
- ・「学校行事は、子どもたちに達成感や自主性をもたせるように工夫されている」は平均値より低い。生徒数が減っていくにあたり、行事をどのように盛り上げていくかに課題がある。
- ・「部活動は盛んである」が全体値に対して低い。生徒数の減少や新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、入部率や部員数が下がっていることが要因ではないかと考える。

2年生（生徒）

- ・全体的に平均値以下が多いが、大きな差異はない
- ・「学校へ行くのは楽しい」「学校で勉強するのは、大切なことだと思う」「授業はわかりやすい」が全体値よりポイントが低い。2年生の中だるみの時期に勉強への意欲が下がっていると考えられる。より一層学習意欲を高めるような工夫が求められる。
- ・「全校朝礼や学年集会は学校生活において自分の為になっている」、についての項目が平均値より高く学校の指導の方向性について理解、受け入れていると考えられる。

2年生（保護者）

- ・多くの項目で全体より低い。
- ・「子どもは、学校へ行くのは楽しいと言っている」「子ども自身は学校で勉強するのは、大切なことだと思っている」のポイントが大幅に低くなっている。これは生徒のアンケートの結果に比例しているので、生徒の学校への意欲関心を高める工夫が求められている。
- ・「学校行事は子どもたちに達成感や自主性をもたせるよう工夫されている」のポイントが高くなっている。今年はコロナウイルス感染症防止による制限があまりなかったことが値に結び付いたと考えられる。

3年生（生徒）

- ・全体的に平均値前後であり、大きな差異はない
- ・「学校に行くのは楽しい」が平均値より高い。過去2年に比べ今年は制限も緩和されて様々な活動ができるようになったことが影響していると考ええる。
- ・「選択科目や体育専門コースなどの興味関心に応じた授業がある」のポイントが平均値より高い。自分の希望にあった授業選択や展開授業があり、様々な取り組みにも進路実現等の兼ね合いから参加している生徒がいると考えられる。

3年生（保護者）

- ・全体的に平均値に比べポイントが低い。
- ・「子どもは学校に行くのが楽しいと言っている」、「教職員は、生徒の能力や努力を適切に評価している」の項目も全体より高いことから、学校の活動に理解を得られていると考える。
- ・「学校に行くのを楽しいと言っている」のポイントが全体より高い一方で、「クラスに友達がいる」等のポイントが低い。
- ・「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」のポイントは全体より低い。3年生になって、生徒・保護者ともに学校に慣れ、学校から家庭へ連絡することも減り、教職員との距離があるように感じているのではないかと。

令和4年度学校評価アンケート 自由記述への回答

●本校での生活指導のありかたについて

美原高校の生活指導につきまして、日ごろからご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。本校では安全でよりよい学校生活・学習の場となることを常々考えながら、生活指導をおこなっています。本校の卒業後の進路は就職3割、専門学校4割、短大・四大3割と卒業後すぐ、または1~2年で社会に出る生徒が多く『挨拶』や『時間を守る』『規則を守る』等の生活指導が社会に巣立つ前のキャリア教育として重要な位置づけを担っていると考えています。その指導を実践することで明るく気持ちの良い挨拶や正しい言葉遣いのできる生徒が多く、懲戒指導件数や外部からの学校への苦情は減少、大阪府下200校近い高校の中でも遅刻の少ない学校となりました。規則や時間等を守り、学校生活に前向きに取り組む生徒が増えるように日々、指導しております。しかしながら、コロナ禍で欠席や遅刻に対する意識が変化、現在は欠席数が多くなっており、欠席数を減らすことが課題となっております。

高校生という多感な時期は、多くの事に挑戦し、成功と失敗を積み重ね、大人に成長していくものだと考えています。何かを達成・成功する体験も大切ですが、社会で生活していくには失敗から学ぶ事もあると思います。高校生活の中で失敗したときの叱咤激励、特に規則や法律を違反した時には厳しく指導をすることが大切であり、それが人生で大きな糧になることもと考え指導をおこなっています。

本校の教員が一丸となり、「厳しく寄り添う」という姿勢で生徒と向き合いながら一人ひとりの成長に向けて指導を行って参ります。

●校則について

本校の校則が厳しいのではないかとご意見を頂きますが、他校と比べても厳しい校則等はありません。多くの高校で同等の規則があり、本校ではその規則を『きちんと守らせる』指導をしています。本校では服装や頭髪・化粧などで外見をアピールすることよりも、挨拶や言葉遣い、マナー遵守等の基本的な生活習慣や基礎学力を身につけることで内面的なアピールができるようになって欲しいと願いつつ、規則・ルールを整え指導を行っています。生徒には、本校の規則・ルールのみならず、法律順守の必要性や社会生活を行う上で必要となるマナーなどを理解させる努力を惜みず、またなぜそれが必要なかを説きながら指導を進めています。生徒の成長を常に考え、将来に希望がもてるように、そして社会に出たときの苦勞を少しでも緩和できるように強い信念をもって指導をおこなっています。

また指導が厳しいとのご意見も頂きますが、教員間で指導のブレが生じないよう、教員同士で指導方法や生徒情報の交換を密に行い、個に応じた指導もおこなっています。暴言や暴力の制止を無視するような場合は、大人として毅然とした態度をとる必要もあり、厳しい言葉を使う事もありますが、基本的人権を無視するような行為や言葉を発する事がないように教職員へ指示をしています。万が一、そのような事があればご連絡をいただければと思います。

●携帯電話の指導について

携帯電話の持ち込みに関しましては、『校内使用の禁止』『校舎内（下足室を除く）への持ち込み禁止』『携帯電話の使用マナーの徹底』を原則に指導をおこなっております。インターネットやSNSなどが急速に広まり、情報化社会の発展がより加速する中、子どもたちが他者と直接顔を合わせてコミュニケーションを取る機会が少なくなってきました。また、コロナウイルス感染症の影響により、それらの機会はいつそう少なくなってきたように感じます。便利な世の中になったからこそ減ってきてしまった直接的なコミュニケーションを大切にしたいと我々は考えております。また、情報機器の発展により様々なことが便利になった反面、SNSを通じたトラブルが近年社会問題となっております。本校においても例外ではなく、匿名性を利用したSNS等でのトラブルは少なくありません。それ以外にも、授業中にゲーム・LINEをする、登下校中の自転車に乗りながらの使用や音楽プレーヤーとしての使用、不用意な写真の投稿から加害者になる、被害者になるなどトラブルが後を絶ちません。さらに、自転車乗車中の携帯電話使用やわき見運転などから起こる交通事故や学力の低下、心身の状態が不安定になる等直接的にも間接的にも問題が生じているのが本校の現状です。

本校の携帯電話に関する規則はそうした心身へのトラブルを未然に防ぐことや他者と直接的に関わりあうことの大切さを学ぶことなどを目的としたものであるということをご理解いただけたらと思います。授業中や部活動中での緊急の連絡は携帯電話ではなく、学校の電話への連絡をお願いします。

●自転車通学について

本校におきましては、自力通学を基本としております。あらかじめ許可された通学経路で登下校するように指導をしております。ご家庭におかれましても法令順守での許可された通学経路で登下校をするようにご指導ください。万が一、事故にあってしまった場合は警察への速やかな連絡をよろしくお願い致します。雨天時は大阪府の条例により『傘差し運転禁止』となっているため、合羽の着用をするように指導しています。また条例違反があれば、学校としての指導も必要となると考えていますので何卒、法令順守をお願いいたします。

また、最近流行しているスロットル付き自転車や電動キックボード等（ペダル等をこがなくてもモーター等の動力のみで走るもの）での通学は法律上の問題もあり懲戒指導の対象となります。

●自動車による送迎について

送迎により登下校時間帯に学校周辺での渋滞発生、近隣の私有地への無断侵入やスーパー等での目的外駐車等の苦情もあり自動車による送迎は原則、禁止しております。但し、怪我等でやむを得ない場合は、送迎許可証を発行し保護者による自動車による送迎を許可しています。もし、何かやむを得ない理由がある場合は担任に相談、事前に学校の許可を得るようにしてください。くれぐれも無断送迎がないようにお願いします（無断送迎は指導対象となります）。

●部活動について

部活動に関しては1年生の早い段階で体験入部の期間を作り、入部を促す機会を作っています。部活動がより活性化するための環境作りを進めていきたいと考えています。

●修学旅行について

今年度の4/6期2年生の修学旅行は、南九州方面に10月19日から3泊4日で行ってまいりました。新型コロナウイルス対応ガイドラインに準拠した感染予防対策の実施と関連施設の受け入れ体制を可能な限り整えて実施いたしました。全員の感染・発症がなく修学旅行が実施できたのは、出発までのご家庭でのご支援や、生徒自身の健康管理のおかげであると考えております。道中は天候にも恵まれ、雄大な桜島の自然と地元の方々の温かい心遣いに触れながら、予定通りの行程で大阪に戻ってくることができました。滞在中、たくさんの民家さんから「美原高校の生徒さんは礼儀正しいですね。」と褒めていただきました。民家での宿泊、体験については、実施後のアンケートで9割を超える参加生徒が「とても良かった」、「良かった」に回答がありました。また、それぞれがお世話になった民家にお礼の手紙を送りましたが、みなさん大変喜んでおられると代表の方からお聞きいたしました。

概ね好評であった修学旅行でしたが、今回至らなかった点や、保護者様からのご意見、ご指摘につきましては、今後の学校行事や次年度以降の修学旅行に活かせたらと考えています。

●校内清掃について

清掃の回数はクラス担当者によってバラつきがあるので、汚れの気になる場所は担当クラスに声かけできるよう工夫していきたいと思っております。